

論文解説

「Administration of daily 5 mg tadalafil improves endothelial function in patients with benign prostate hyperplasia」

長野赤十字病院第一泌尿器科

天野 俊 康

はじめに

勃起障害 (erectile dysfunction ; ED) の画期的な治療薬として、1999 年に PDE (phosphodiesterase) 5 阻害薬であるシルデナフィルが上市され、その有効性、安全性などより ED 診療は大きく変化した。さらに、2004 年よりバルデナフィル、2007 年よりタダラフィルが使用可能となり、現在わが国ではこの 3 種の PDE5 阻害薬が ED 治療の第一選択薬として広く用いられている。

PDE5 阻害薬の作用機序は、一酸化窒素 (nitric oxide ; NO) を介して血管内皮細胞の弛緩が起こり、勃起を改善させる。PDE5 阻害薬は以前より、男性の下部尿路症状 (lower urinary tract symptoms ; LUTS) にも有用であるという報告もなされていたが^{1) - 3)}、わが国において 2014 年 4 月より、タダラフィルの連日投与が前立腺肥大症 (benign prostatic hyperplasia ; BPH) にともなう LUTS に対して保険適応となり、使用が可能と

なった。PDE5 阻害薬は元来、内皮細胞を弛緩させるという機能を有しており、タダラフィルを連続投与することにより、LUTS だけではなく性機能や血管系に対してもよい影響があるのではないかと考えられた。そこで、われわれが、BPH として当科を受診し LUTS を有する患者に対してタダラフィルを投与し、LUTS に対する効果に加え、性機能、動脈硬化症からみた血管系への影響などの副次的作用につき、臨床的検討を行い報告したのが本論文である。

対象および方法

本研究は院内の生命倫理委員会 (Institutional Review Board ; IRB) の承認を受けた前向き試験で、文書による説明と同意を得て施行した。

排尿障害や蓄尿障害などの LUTS を主訴として当科外来を受診し、BPH と診断され、タダラフィルを投与された 81 例を対象とした。タダラ

Toshiyasu Amano (部長)